

「山田錦のいま、未来」特別座談会

とき 令和2年12月4日
ところ 兵庫県農林水産技術総合センター
酒米試験地(沢部内) 酒米研究交流館

ス感染症の感染拡大によって、山田錦の出荷量が落ち込んでいますよね。

【石田】 ええ、今年は、例年になく出荷量が鈍っています。日本酒の消費量が落ち込んでいる影響で、酒蔵から、今年は酒の仕込み量を減らす、仕込み自体を中止する、といった話も多く聞かれています。令和3年産については、酒蔵からの申込数量を元に山田錦の生産計画を立て、大幅な生産調整を行うことが予想されます。

【田尻】 最近では、山田錦を安定的に生産することが難しくなってきたように思います。

ここ数年感じるのは、地球温暖化の影響ですね。気候が安定せず、同じ方法で栽培しても、見栄えが悪い米ができたり、収穫量が減ってしまったたり、安定した米作りが難しいんですね。

【村上】 地球温暖化によって、酒米の生産も影響を受けているということですが、酒米試験地では、その対策の研究は行われているのでしょうか。

【池上】 はい。平成10年ごろから、気温が高くなっており、出穂期は以前より2日ほど早く、刈取りは9日ほど早くなっています。昔は各地で10月

【村上】 「山田錦のいま、未来」について、みなさん、それぞれの視点からお話いただければ、と思います。まず、山田錦という品種そのものについて、池上さんご意見をお聞かせください。

【池上】 私が知る限り、山田錦は日本一の酒米ではないかと思っています。酒造りは精米、麹づくり、もろみの発酵など、様々な工程がありますが、山田錦は酒造りの全ての工程において、優れた特性を持っています。精米だけ、香りだけといった部分的に優れた酒米はほかにありますが、全てを兼ね備えている酒米は、山田錦しかないと思います。このような優れた特性を維持し、向上させていけるよう、我々は日々研究しています。

【吉田】 その土地や気候に合った品種として山田錦が開発され、今まで維持されてきたということですね。ここに至るには、県や関係機関の大変な努力があったんでしょうね。

【村上】 今年は、新型コロナウイルス

全国の酒蔵、そして日本酒愛好家から親しまれている、酒米の王者『山田錦』。世界的な和食ブームとともに、海外でも日本酒の認知度が高まっています。しかし、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、日本酒の消費量が低迷。加東市産山田錦で醸した日本酒も例外ではなく、酒蔵や生産農家は、大きな影響を受けています。

そこで、加東市産山田錦の今後の展望を考える機会として、吉田類さん(加東市産山田錦PR大使)、村上秀昭さん(加東文化振興財団事務局長)、池上勝さん(兵庫県農林水産技術総合センター酒米試験地主席研究員)、石田康治さん(みのり農業協同組合加東営農経済センター長)、田尻倫生さん(山田錦生産農家)に、山田錦のいまと未来について、熱く語っていただきます。



▶山田錦の展望を語る吉田類さん(加東市産山田錦PR大使)

ごろに開かれる秋の祭りが終わってから刈取りをしていたんですが、最近では、祭りまで待っていたら刈取適期を逃してしまうような状況です。

その対策として、「山田錦最適移植マップ」を作成しています。田植えの時期を遅らせて、穂が出る時期を遅らせるために、移植時期の目安を示す、気象のデータベースシステムです。

【村上】 なるほど。対策もされているとのことですが、現状は、様々な課題があるということですね。

山田錦の未来

【村上】 では、これからの山田錦について、お話を伺いたいと思います。今後に加東市の山田錦のブランド力を維持し、より良い山田錦を生産し続けるにはどうしたらいいのでしょうか。

【池上】 山田錦は、全国の40府県で生産され、競争が激しくなっています。兵庫県産山田錦の優位性としては、山田錦の本物の種子は兵庫県にしかないこと、そして、山田錦に適した恵まれた土壌があることの2

つです。これに加え、品質向上への取り組みを地道に続けることが、兵庫県産山田錦のブランドを維持することにつながるんじゃないかと思っています。

また、生育診断や、刈取適期を判断するスマートフォン向けのアプリを作って、生産者に役立ててもらえるような「スマート農業」の技術を開発したいと思っています。

【田尻】 若手農家が少なくなり、耕作放棄地が増えてくる中で、省力化につながる「スマート農業」は、私も積極的に取り入れていきたいと考えています。

しかし、若い人たちが農業をしないのは、米作りに対して、良いイメージがないから、希望を持ってないからではないかと思っています。

これからは、私たちがスマート農業や酒蔵との交流など、農業の魅力を発信して、そのようなイメージの払拭につなげたいと思います。

【石田】 山田錦の魅力を多くの人に知ってもらうことは今の落ち込んだ日本酒の需要を回復するためにも、大切なことですね。

日本酒の消費が増えていか

ないことには、山田錦の生産農家や酒蔵のみなさんも生産量や出荷量を調整せざるを得ません。一刻も早く、日本酒の需要が回復することを願っています。日本酒の消費拡大を応援したいと思います。

【吉田】 未来の生産者を呼び込むためにも、いまの日本酒の消費量を復活させるためにも、やはり加東市産山田錦の魅力を発信していくことが大事ですね。

僕は、これからの加東市産山田錦の日本酒をずっと飲み続けたいし、見た目も、味も、かっこいいんだということを、一人でも多くの人に知ってほしいです。そうやって日本酒が好きなる人を増やして、需要を回復していったら、その中から山田錦の生産に携わる人が増えたらいいな、なんて思います。

とにかく、生産者が元気でいていただかないと、僕はおいしいお酒を飲み続けることができません。僕ができることといえば、加東市産山田錦の日本酒を飲んで、素晴らしいことを伝えることだけですが、これからのいろんな形で応援し続けたいと、改めて思いました。



▲左から、池上勝さん(兵庫県農林水産技術総合センター酒米試験地主席研究員)、村上秀昭さん(加東文化振興財団事務局長)、吉田類さん(加東市産山田錦PR大使)、石田康治さん(みのり農業協同組合加東営農経済センター長)、田尻倫生さん(山田錦生産農家)

※記事は、対談の内容を要約・編集しています。